

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年02月25日

計画の名称	いつまでも安心して快適に住むことができる魅力あるまち												
計画の期間	平成28年度 ~ 令和02年度 (5年間)										重点配分対象の該当	○	
交付対象	春日井市												
計画の目標	当地区を含む高蔵寺ニュータウンは、昭和43年の入居開始から約47年が経過し、春日井市全体の人口は昭和50年代以降増加率は縮小しているものの、増加を続ける中、ニュータウン地区においては平成7年の約51,000人をピークに年々人口減少がみられる。平成12年には15歳未満の人口比率が市域全体を下回り、平成20年には高齢化率が市域全体を上回るなど、少子高齢化の状況も顕著に現れており、まちの活力や賑わいの衰退が懸念され、持続可能なまちづくりが求められている。藤山台周辺エリアにおいては、旧小学校施設の活用により、集約拡充される公益施設（図書館の移設拡充、児童館新設、地域包括支援センターの移設）と施設利用者が気軽に利用できるコミュニティカフェ等の地域交流・地域活動空間を有する「まなびと交流のセンターの拠点施設」を整備し、既存ストックを生かした区域全体の魅力向上と施設利用者間の多世代交流を促すことで、高蔵寺ニュータウン全体の賑わいの創出と再生を図る。また、整備から長期間が経過した道路等の公共施設の再構築により、良好な歩行者空間の確保や居住空間の快適性を高め、区域全体の良好な環境の充実と維持を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A + B + C + D）	357	A	349	B	0	C	8	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A + B + C + D)	2.24	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H26末	R1末	R2末
1	移設拡充により、図書室の年間施設利用者数を8万5000人から1割増加させる。 図書室の利用者数 貸し出しの年間施設利用者数の比較	85407人	90000人	94000人
2	ニュータウン地区の人が、「地域で学習や交流活動を行うときに、その場所は利用しやすくなっていると思う」人の割合を49.5%(H26)から54.2%(R2)に増加させる。 学習・交流活動の市民満足度指数 市民満足度調査において、ニュータウン地区の人が「地域で学習や交流活動を行うときに、その場所は利用しやすくなっていると思う」に「はい」と答えた人の割合	50%	53%	54%
3	ニュータウン地区の人の「高蔵寺ニュータウンの再生が進んでいる」と感じる満足度を、2.50(H26)から2.55(R2)に増加させる。 ニュータウンの活性化満足度指数 市民満足度調査において、ニュータウン地区の人の「高蔵寺ニュータウンの再生が進んでいる」の満足度を1（不満）～5（満足）で答えた指数の平均値	3満足度	3満足度	3満足度
4	高蔵寺ニュータウン外から高蔵寺ニュータウン内への転入・転居人数を、1,667人(H28)から1,750人(R2)に増加させる。 高蔵寺ニュータウンへの転入・転居数 高蔵寺ニュータウン外から高蔵寺ニュータウン内へ転入・転居してくる人数	1667人	1722人	1750人
5	高蔵寺ニュータウン内の子育て世帯（18歳未満の子どもがいる世帯）の割合を、19.7%(H28)から20.8%(R2)に増加させる。 子育て世帯割合 高蔵寺ニュータウン内の子育て世帯（18歳未満の子どもがいる世帯）の割合	20%	20%	21%
6	まちづくり会社を実施する自主事業で得る収益を、0.3百万円/年(H29)から1.4百万円/年(R2)に増加させる。 まちづくり会社の自主事業で得る収益 まちづくり会社を実施する自主事業で得る収益額	0百万円/年	1百万円/年	1百万円/年

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H28	H29	H30	H31	R02				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	春日井市	直接	春日井市	-	-	高蔵寺ニュータウン再生・藤山台周辺地区都市再生整備計画事業(都市再構築戦略事業)(1-A-1)	道路・高質空間形成施設・既存建造物活用事業・地域生活基盤施設	春日井市						349		-	
												小計						349		
												合計							349	

C 効果促進事業																				
基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H28	H29	H30	H31	R02				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市再生整備計画事業	C10-001	都市再生	一般	春日井市	直接	春日井市	-	-	都市構造に関する検討調査（1-C-1）	都市構造に関する検討調査	春日井市						8		-	
		都市再生整備計画事業（A-1）と一体的に、市全体の都市構造について検討することで、高蔵寺ニュータウンにおける効果的な都市機能の集約を図る。																		
												小計						8		
												合計						8		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業に関わる関係課による庁内の横断的な組織で検討会議を開催し、事後評価を実施した。	令和3年度
	公表の方法
	春日井市のホームページで公表

事業効果の発現状況

<p>定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流拠点施設「高蔵寺まなびと交流センター」に図書館、児童館、コミュニティカフェ、地域包括支援センター等が複合的に整備され、定期的にイベント等も開催されており、老若男女問わず多くの人に利用され、賑わいが生まれている。 ・多世代交流の拠点となる「高蔵寺まなびと交流センター」に児童館、図書館、遊具といった、子育てに寄与する施設を整備し、子育て世帯の転入超過となっている。 ・藤山台・岩成台中学校区を事業エリアとする地域包括支援センターが高蔵寺まなびと交流センター内に整備され、利便性が向上した。
<p>定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高蔵寺まなびと交流センターは小さな子どもから高齢者まで多世代に利用される施設であり、年間を通じて様々なイベントが定期的に行われ、多世代が交流できる魅力的な施設として市民からの評判が高い。 ・高蔵寺まなびと交流センター周辺の歩道がカラー舗装で整備されたことにより、歩行者の安全性が向上しており、徒歩によるアクセスが多くなっている。

特記事項（今後の方針等）

<ul style="list-style-type: none"> ・高蔵寺まなびと交流センターの芝生広場などの屋外施設を活用したイベントなどを企画し、ニュータウン内外へコロナ禍における新たな生活様式に合わせた情報を発信することで、ブランド力の向上を図る。 ・高蔵寺まなびと交流センターの芝生広場や遊具の利用状況を踏まえ、隣接する烏洞公園等既存ストックの有効活用方策を検討する。 ・高蔵寺まなびと交流センターと旧西藤山台小学校施設に整備される生活利便施設との連携を図り、地域の魅力と利便性の向上を図る。 ・地域包括支援センターが多世代交流拠点施設に複合的に整備された利点を生かし、高齢者向けのイベントや高齢者が多世代と交流できる機会の創出を図り、高齢者の健康で文化的な暮らしを支援していく。 ・高蔵寺まなびと交流センターに隣接する中学、高校と連携した社会活動や他世代と交流する機会の更なる創出について検討する。 ・市民の足である公共交通について、高蔵寺まなびと交流センターを含むセンター地区を核とした快適移動ネットワークの構築を進めるとともに、施設へのアクセス向上を検討する。 ・高蔵寺まなびと交流センターのPRやイベントの実施などの取組を継続し、多世代から親しまれる施設として日常的な利用促進を図ること、また、ニュータウン地区内でのDIYの実施などによる空き家対策、施設周辺にある学校などとの地域連携など、高蔵寺まちづくり株式会社によるエリアマネジメントを継続し、地域の魅力を高めていく。

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	貸し出しの年間施設利用者数の比較		
	最終目標値	94000人	平成30年4月1日に開所した多世代交流拠点施設「高蔵寺まなびと交流センター」では、図書館、児童館、コミュニティカフェ、地域包括支援センター等が複合的に整備され、定期的にイベント等も開催されており、老若男女問わず多くの人に利用される新たなにぎわい拠点が形成された。図書館利用者数も令和元年度には97,795人となり、目標値を上回ったが、令和2年度は新型コロナウイルスの流行により、施設を休館せざるを得ない時期もあり、評価値は目標値を下回った。（目標値：94000人 評価値：74696人）
	最終実績値	74696人	
2	市民満足度調査において、ニュータウン地区の人が「地域で学習や交流活動を行うときに、その場所は利用しやすくなっていると思う」に「はい」と答えた人の割合		
	最終目標値	54%	「高蔵寺まなびと交流センター」への図書館の拡充整備により、従来の図書室利用者に比して、新型コロナウイルスの流行前までは約1.2倍の利用があるなど、学習や交流の機会が増えていると考えられるが、本指標計測時（令和3年7月～8月）には、コロナ禍の外出自粛や市内公共施設の休館の影響による満足度の低下が想定され、全体として目標値を下回る結果になったと考えられる。（目標値：54.2% 評価値：46.2%）
	最終実績値	46%	
3	市民満足度調査において、ニュータウン地区の人の「高蔵寺ニュータウンの再生が進んでいる」の満足度を1（不満）～5（満足）で答えた人の割合		
	最終目標値	3満足度	高蔵寺まなびと交流センターの開所や周辺道路の整備に加え、高蔵寺り・ニュータウン計画に基づき、旧西藤山台小学校施設の事業者公募や高蔵寺駅周辺整備の検討（南口、地下道の整備イメージ公表）、自動運転技術の導入に向けた実証事業など、目に見える形で高蔵寺ニュータウンの変化を感じられるようになり、ニュータウンの活性化満足度が向上したと考えられる。（目標値：2.55 評価値：2.83）
	最終実績値	3満足度	
4	高蔵寺ニュータウン外から高蔵寺ニュータウン内へ転入・転居してくる人数		
	最終目標値	1750人	通勤、通学等を契機とした社会減や都市再生機構にて実施している団地再生の取組による団地取壊しや取壊しに向けた住民の退去が進められていることなど特殊要因により従前値を下回る結果となったと考えられる。（目標値：1750人 評価値：1437人）
	最終実績値	1437人	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
5	高蔵寺ニュータウン内の子育て世帯（18歳未満の子どもがいる世帯）の割合		
	最終目標値	21%	通勤、通学等を契機とした社会減や都市再生機構にて実施している団地再生の取組による団地取壊しや取壊しに向けた住民の退去が進められていることなど特殊要因により従前値を下回る結果となったと考えられる。（目標値：20.8% 評価値：15.9%）
	最終実績値	16%	
6	まちづくり会社が実施する自主事業で得る収益額		
	最終目標値	1百万円 / 年	会社設立以降、拠点としている高蔵寺まなびと交流センターでの一定の集客数を確保できるイベント開催など、自主事業を順次拡大したことから、目標値を大きく上回る結果となったと考えられる。（目標値：1.4百万円 評価値：2.47百万円）
	最終実績値	2百万円 / 年	
7	高蔵寺ニュータウン内の65歳以上人口のうち要介護等認定者の割合		
	最終目標値	14%	高齢化率の増加と関連し、要介護等認定率も増加を続けているが、地域包括支援センターの整備により、地域包括ケアが継続的に実施され、目標達成にまでは至らなかったが、市域全体の認定率（16.6%）よりも低い結果となっている。。（目標値：14.0%以下 評価値：14.3%）
	最終実績値	14%	